2018年6月15日

岡山県感染症週報 2018年 第23週（6月4日 ～ 6月10日）

◆2018年　第23週（6/4～6/10）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第22週　2類感染症　結核　1名（80代　男）
　　4類感染症　レジオネラ症　2名（50代　男　1名、70代　男　1名）
　　5類感染症　百日咳　1名（小学生　女）

第23週　2類感染症　結核　7名（乳児　男　1名、10代　男　1名、20代　男　1名、40代　男　1名、70代　女　1名、80代　男　1名・女　1名）
　　3類感染症　腸管出血性大腸菌感染症　2名（O群不明：小学生　女　1名、O157：40代　女　1名）
　　4類感染症　レジオネラ症　1名（80代　女）
　　5類感染症　ウイルス性肝炎　1名（30代　男）
　　カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症　1名（80代　男）
　　劇症型溶血性レンサ球菌感染症　1名（60代　女）
　　後天性免疫不全症候群　1名（20代　女）
　　梅毒　1名（40代　男）
　　百日咳　4名（幼児　男　1名、小学生　男　1名、高校生　女　1名、50代　女　1名）

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

○感染性胃腸炎は、県全体で459名（定点あたり10.11 → 8.50人）の報告があり、前週から減少しました。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で112名（定点あたり2.30 → 2.07人）の報告があり、前週からわずかに減少しました。

【第24週　速報】

○腸管出血性大腸菌感染症　1名（O26：高校生　男）の発生の報告がありました。（6月13日）

---

1. 感染性胃腸炎は、県全体で459名（定点あたり10.11 → 8.50人）の報告があり、前週から減少しました。地域別では、備北地域（10.75人）、岡山市（10.21人）、倉敷市（9.00人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎も増加します。特にトイレの後や調理・食事の前には、石けんと流水でしっかりと手を洗うなど、感染予防と拡大防止に努めましょう。感染予防の方法については、コラムをご参照ください。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、県全体で112名（定点あたり2.30 → 2.07人）の報告があり、前週からわずかに減少しました。地域別では、岡山市（3.00人）、倉敷市（2.64人）、美作地域（2.50人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、就学前から学童期にかけての小児に多く、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。
3. 梅毒は、第23週までで66名の報告がありました。昨年の同時期（51名）に比べても多い報告数となっています。また、年代別でも、昨年の同時期に比べて、10代が1名（男）→5名（男2名、女3名）、20代が17名（男7名、女10名）→18名（男10名、女8名）、30代が13名（男12名、女1名）→19名（男13名、女6名）となっており、10代から30代で増加がみられます。
4. 百日咳は、第23週までで81名の報告がありました。特に3月の中旬以降、継続的に多くの報告がみられています。年代別では小学生（38名）、中学生（13名）が多いですが、20歳以上の大人でも、18名の報

告がありました。地域別では、備中地域（28 名）、岡山市及び倉敷市（21 名）の順に報告数が多くなっています。

予防法は、予防接種とともに、感染者との接触を避けること、流行時のうがいや手洗い、手指の消毒などです。また、感染時は、軽症でも菌の排出があるため『咳エチケット』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。

5. 日本紅斑熱は、第 23 週までで 2 名の報告がありました。この感染症は、病原体（日本紅斑熱リケッチア）を保有するマダニに咬まれることで感染します。潜伏期間は 2～8 日程度で、発熱・刺し口・発しんが 3 大特徴です。作業やレジャーなどで野山や草むらに入るときは、肌の露出を少なくするなど、ダニに咬まれないように注意しましょう。全国や岡山県の発生状況など詳しくは、**「今週の注目感染症」**をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓		RSウイルス感染症	→	★
咽頭結膜熱	→	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↘	★★★
感染性胃腸炎	↘	★★★	水痘	↗	★
手足口病	→	★	伝染性紅斑	→	★
突発性発疹	↘	★★	ヘルパンギーナ	↑	★
流行性耳下腺炎	↗	★	急性出血性結膜炎	↘	
流行性角結膜炎	↘	★	細菌性髄膜炎	→	
無菌性髄膜炎	→		マイコプラズマ肺炎	↘	
クラミジア肺炎	→		感染性胃腸炎（ロタウイルス）	↘	

【記号の説明】 前週からの推移： ↑：大幅な増加　↗：増加　→：ほぼ増減なし　↓：大幅な減少　↘：減少

大幅：前週比100%以上の増減　　増加･減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）

空白：発生なし　★：わずか　★★：少し　★★★：やや多い　★★★★：多い　★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症

☆日本紅斑熱

日本紅斑熱は、リケッチアの一種、リケッチア・ジャポニカ（日本名 ： 日本紅斑熱リケッチア）による熱性・発しん性の感染症です。

マダニ（ヤマアラシチマダニ、フタトゲチマダニ、ヤマトマダニなど）が媒介します。夏から初冬にかけて多く発生しますが、真冬を除いてほぼ 1 年中感染する可能性があります。近年、患者数は増加傾向にあり、2017 年には全国で 337 名の患者が報告されています。岡山県では、2009 年 10 月に初めての患者が発生しました。例年 3 名程度の発生でしたが、昨年は 7 名に増加しました。今年は 6 月 10 日までで 2 名の報告がありました。

症状は咬まれてから 2～8 日後に、高熱と発しんで発症します。発熱・マダニの刺し口・発しんが 3 大特徴であり、ほとんどの症例にみられます。一般的に予後は良好ですが、適切な治療が行われなかった場合は重症化し、死に至ることもあります。

診断は臨床症状とともに末梢血中からのリケッチア遺伝子または抗体の検出で行われます。

治療はテトラサイクリン系抗菌剤が有効です。

マダニに咬まれないように予防することが極めて大切です。詳細はコラムをご参照ください。

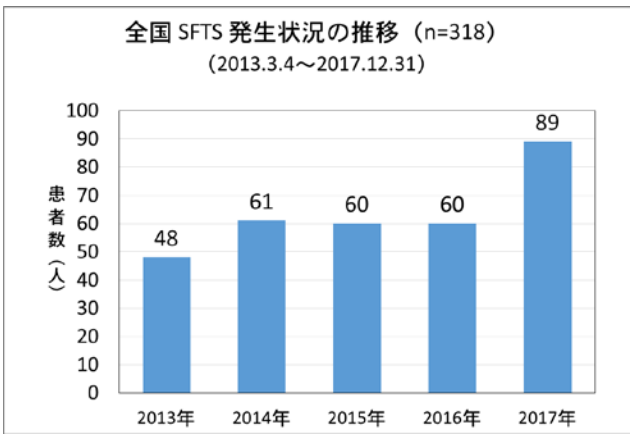
早期診断、早期治療が重要です。もしもと思ったときには、すぐに医療機関を受診しましょう。

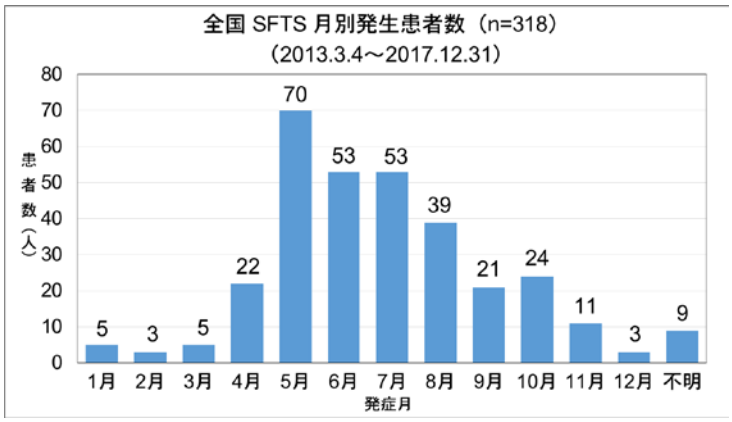
※その他のダニ媒介感染症については岡山県感染症情報センターのホームページをご覧ください。

＜ダニ媒介感染症の全国および岡山県の発生状況について＞

☆SFTS（重症熱性血小板減少症候群）

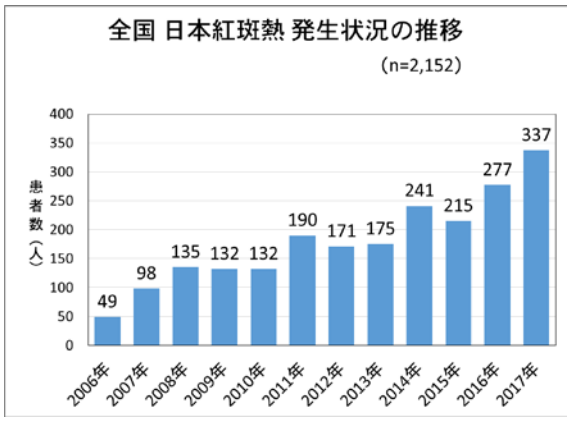
全国では、例年 60 名前後の報告がありますが、昨年（2017 年）は、89 名と患者の増加がみられました。時期的には、4 月から患者数が増え始め、5 月でピークとなり、その後患者数は減っていく傾向にあります。岡山県でも、過去 5 年間の状況（患者数 5 名）をみると、5 月から 7 月の間に患者が発生しています。

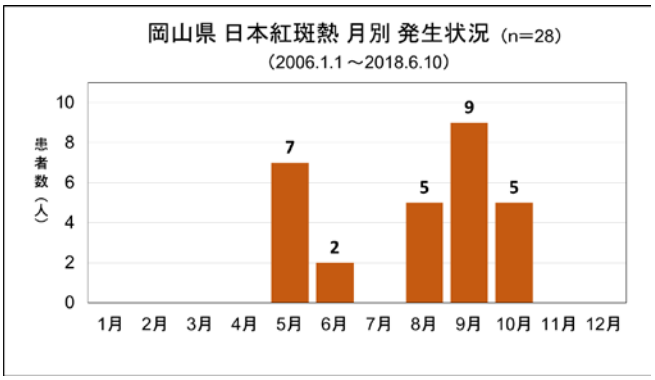




☆日本紅斑熱

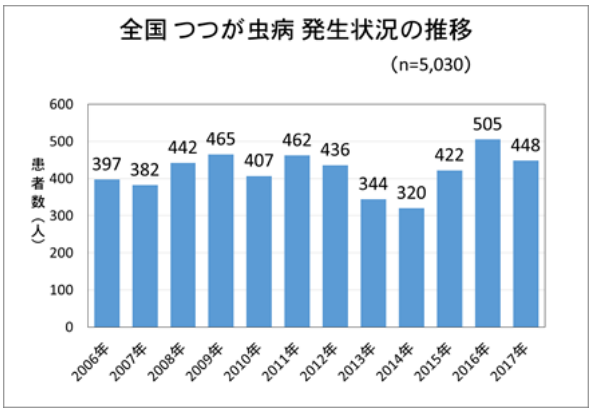
全国の発生状況をみると、年々患者数が増加しています。岡山県では、例年 3 名前後で推移していましたが、昨年は 7 名の報告がありました。今年は 6 月 10 日までで 2 名の報告がありました。月別発生状況では、5 月から 6 月と 8 月から 10 月にかけて、患者数が増加する傾向があります。

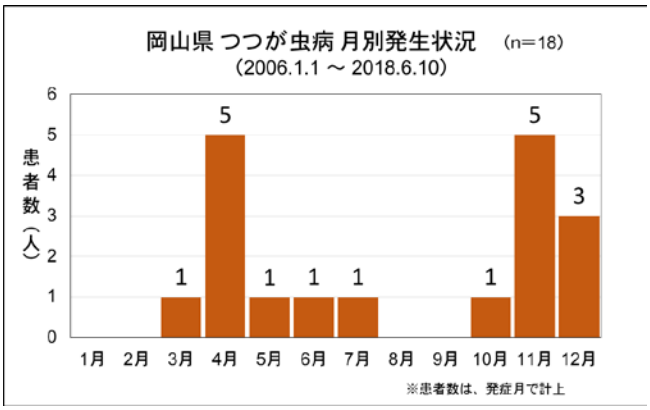




☆つつが虫病

全国の発生状況をみると、患者数は近年横ばいです。岡山県の月別発生状況では、4 月と 11 月に患者数が増加する傾向があります。今年は、6 月 10 日までで 2 名の報告がありました。





ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

今の季節、レジャーや農作業など、野外で活動する機会が増えています

フタトゲチマダニ
岡山県環境保健センター

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られています。これらのダニの中には、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）や日本紅斑熱、つつが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものもいます。春から秋（3～11 月）にかけて、ダニの活動が活発になります。野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。

【予防のポイント】

◎草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る時は、腕、足、首など肌の露出を少なくしましょう。

◎服の上や肌の露出部分に、虫除け剤（ディートやイカリジンを含むもの）を噴霧しましょう。
（虫除け剤の子供への使用は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。）

◎地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。

◎帰宅後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。

◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時には、ダニが肌についていないかチェックしてください。

◎脱いだ衣類は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。

◎ペットにもダニがつかないように、ダニ除け剤などで予防しましょう。

【マダニがついていたとき】　**～マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません～**

◎容易に取り除くことができる場合（2、3 日以内）は、すぐに取り除いてください。その後、2 週間程度は、体調の変化に注意してください。
なお、取り除いたマダニは、プラスチック容器等に保存しておいてください。

◎容易に取り除くことができない場合（数日以降）は、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。無理に取り除くと、口器が皮膚に残って、化膿するなど治癒が遅れる場合があります。

【症状がでたとき】

◎野外活動の後、数日から 2 週間程度のうちに発熱・発しん等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その際、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えてください。
また、取り除いたマダニを保存している場合は、医療機関を受診する際に持参してください。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

⇒ 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A （厚生労働省）

⇒ マダニ対策、今できること （国立感染症研究所）

◆◆◆ 食中毒予防の３原則◆◆◆

岡山県は食中毒注意報を発令しました！（6 月 12 日）

例年、梅雨から夏にかけての高温多湿になる時期は、食中毒菌による感染性胃腸炎が増加します。
次の３原則に心がけ、予防に努めましょう。

- **「清潔」（菌をつけない）**
  - ・調理前、食事前、用便後には、石けんと流水で手をよく洗いましょう。
  - ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄消毒を行いましょう。
- **「迅速・冷却」（菌を増やさない）**
  - ・生鮮食品、調理したものは、できるだけ早く食べましょう。
  - ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
- **「加熱」（菌をやっつける）**
  - ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
  - ・特に、食肉等は中心部まで十分に火を通しましょう。
    （食肉の生食は避けましょう。）

食中毒予防の３原則（岡山県生活衛生課）
家庭でできる食中毒予防の６つのポイント（厚生労働省）

麻しんについて（情報提供）

沖縄県では、平成 30 年３月下旬に台湾からの旅行者に麻しん感染が確認されてから、県内各地に感染が広がっておりましたが（報告患者数 99 名）、５月 16 日以降、新たな患者が確認されなかったことから、６月 11 日に沖縄県の麻しん流行の終息が宣言されました。しかし、依然として患者の発生が報告されている地域（愛知県、東京都など 12 都府県で少なくとも 85 名）があり、いまだ注意を要する状況が続いています。

麻しんの発生報告がある地域に旅行、滞在を計画されている方は、事前に十分に安全性についてご確認の上、必要であれば予防接種をご検討ください。

特に麻しんに感染すると重症化しやすい年齢である小学校入学前までのお子さんについては、MR ワクチンの予防接種の状況を、今一度ご確認ください。（この年代では定期接種２回となっています。母子手帳を確認の上、接種が行われていない場合は、MR ワクチンを接種してください。）

麻疹とは　（国立感染症研究所）

麻しんについて（厚生労働省）

蚊が媒介する感染症に注意しましょう！

蚊が媒介する感染症（ウイルスなどの病原体を保有する蚊に刺されることによって起こる感染症）は、世界的に多く発生しており、特に熱帯・亜熱帯地域で広く流行しています。主な感染症には、**デング熱**、**ジカウイルス感染症**、**チクングニア熱**、**日本脳炎**、**マラリア**、**ウエストナイル熱**、**黄熱**などがあります。

近年では、中南米、アフリカ、東南アジアなどでジカウイルス感染症が流行しており、特に妊婦及び妊娠の可能性のある方は注意が必要です。

日本では、海外渡航などの増加により、海外で感染し、帰国後発症する輸入症例が増加しており、2016 年には、海外からの帰国者が、デング出血熱を発症し、死亡する事例が発生しました。また、2014 年には、デング熱の国内感染例が報告されました。媒介する蚊が冬を越せないため、ウイルスの国内への定着はないと考えられますが、今後も注意が必要です。

【蚊が媒介する感染症の予防策】

日本脳炎および黄熱はワクチンによる予防接種、マラリアは医師の処方による予防内服が有効ですが、デング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱およびウエストナイル熱には、ワクチンも予防薬もありません。

海外渡航中の感染予防や、国内での流行の未然防止のため、蚊に刺されないこと、蚊の発生を抑えることを意識した行動が重要です。

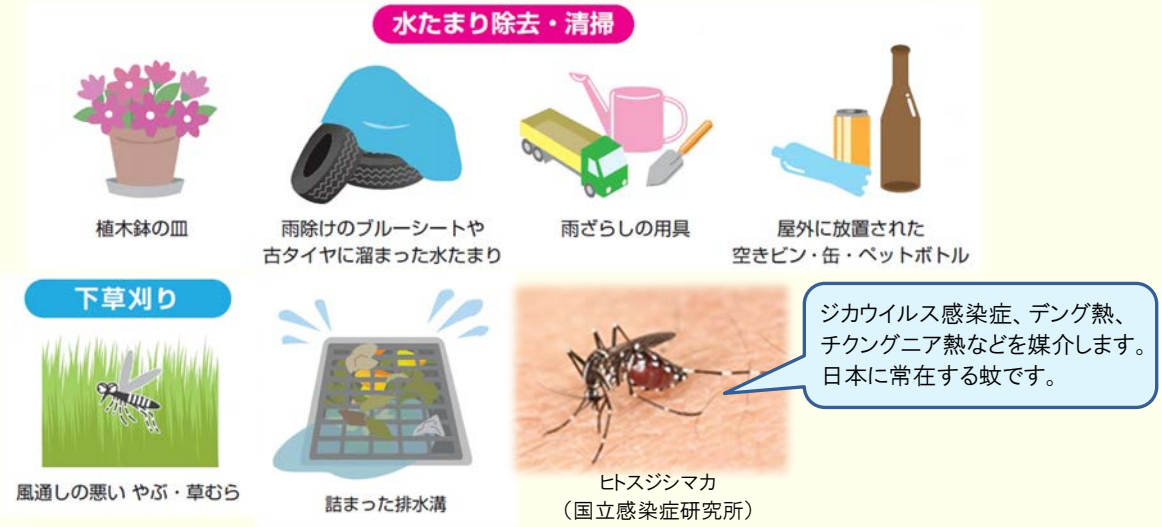
蚊に刺されない

- 長袖、長ズボンを着用するなど、屋外の作業において、肌の露出をなるべく避ける。
- 素足でのサンダル履きを避ける。
- 白など薄い色のシャツやズボンを選ぶ。（蚊は色の濃いものに近づく傾向がある）
- 蚊取り線香などを使って蚊を近づけない。
- 露出する部分には虫除けスプレーなどを使い、蚊を寄せ付けないようにする。

蚊を発生させない

家の周囲の水たまりの除去・清掃をしましょう！
下草を刈るなど、成虫が潜む場所をなくしましょう！

（厚生労働省より）



蚊媒介感染症（厚生労働省）
「蚊防除対策ガイドライン」を作成しました（岡山県 保健福祉部 健康推進課）

ポスター（厚生労働省）
【用心編】感染症の運び屋！ 蚊からバリアーで身を守れ！
【発生源編】ジカ熱・デング熱の運び屋ヒトスジシマカの発生源を叩け！
【学校編】ジカ熱・デング熱の感染源 ヒトスジシマカに注意！

梅毒（性感染症）に気をつけましょう!

梅毒スピロヘータの電子顕微鏡写真
（国立感染症研究所 HP より）

●岡山県で梅毒の患者が急増しています

第 23 週までで 66 名と、昨年の同時期（51 名）に比べても多い報告数となっています。また年代別でも昨年の同時期に比べて 10 代が 1 名→5 名、20 代が 17 名→18 名、30 代が 13 名→19 名となっており、10 代～30 代で増加がみられます。岡山県は全国的にも届出が多く、2018 年 1 月から 3 月でみると、人口 100 万人当たりの届出が大阪府、東京都に次ぎ全国 3 位となっています。全国的にも患者は近年増加傾向を示しており、注意が必要な状況です。

●早期顕症梅毒が多く報告されています

病型に着目すると、男女とも感染性の高い早期顕症Ⅰ期が多く、特に男性の異性間の性交渉による感染では、早期顕症Ⅰ期の届出が半数以上を占めています。一方、女性の異性間、男性の同性間は無症候期の届出も多い状況です。

●梅毒以外にも注意すべき性感染症はあります

性行為を通じ感染する感染症は梅毒以外にも、例えば HIV、クラミジア、ヘルペス、淋病など多くあります。これらの感染症を防ぐためにセーフセックスを意識するとともに、心当たりがある場合には医療機関の早期受診を心がけましょう。

「梅毒」とは

梅毒スピロヘータによっておこる、性感染症として重要な疾患です。早期には皮膚、粘膜に病変をきたしますが、進行により心血管系や、脳・背髄の実質、髄膜などの神経系臓器など全身臓器に感染がおよび、大きな障害をもたらします（晩期顕症梅毒）。また妊婦の感染では胎児に様々な障害をきたします（先天梅毒）。

＜病型＞

早期顕症Ⅰ期：感染後３週間後から病原体侵入部位に硬結を生じ次第に潰瘍化し、両そ径部のリンパ節が腫脹します。２～３週間で自然に消退します。

早期顕症Ⅱ期：Ⅰ期消退後３か月後で、バラしん（発しん）、膿胞、外陰部のコンジローマ（扁平腫瘤）、脱毛など３年程度様々な症状を繰り返しながら進行し、晩期梅毒に進んでいきます。

無症候期：Ⅰ期とⅡ期の間やⅡ期の発しん消退後など、梅毒血清反応が陽性ですが、臨床症状は認められない期間です。診断・治療の遅れにつながることがあります。

日本の梅毒症例の動向について　国立感染症研究所

ストップ！梅毒　日本性感染症学会

保健所別報告患者数 2018年 23週（定点把握） （ 2018/06/04～2018/06/10 ） 2018年6月14日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
RSウイルス感染症	4	0.07	–	–	1	0.09	–	–	3	0.43	–	–	–	–	–	–
咽頭結膜熱	32	0.59	11	0.79	11	1.00	3	0.30	3	0.43	1	0.25	2	1.00	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	112	2.07	42	3.00	29	2.64	16	1.60	5	0.71	1	0.25	4	2.00	15	2.50
感染性胃腸炎	459	8.50	143	10.21	99	9.00	83	8.30	29	4.14	43	10.75	14	7.00	48	8.00
水痘	20	0.37	6	0.43	10	0.91	2	0.20	1	0.14	1	0.25	–	–	–	–
手足口病	17	0.31	7	0.50	5	0.45	–	–	3	0.43	1	0.25	–	–	1	0.17
伝染性紅斑	12	0.22	8	0.57	–	–	4	0.40	–	–	–	–	–	–	–	–
突発性発疹	26	0.48	14	1.00	1	0.09	3	0.30	5	0.71	2	0.50	1	0.50	–	–
ヘルパンギーナ	24	0.44	11	0.79	4	0.36	–	–	3	0.43	–	–	1	0.50	5	0.83
流行性耳下腺炎	7	0.13	4	0.29	1	0.09	1	0.10	1	0.14	–	–	–	–	–	–
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–					–	–
流行性角結膜炎	12	1.00	10	2.00	2	0.50	–	–	–	–					–	–
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	–	–	–	–	–	–					–	–	–	–	–	–

（ – ： 0 or 0.00 ） （ 空白 ： 定点なし ）

保健所別報告患者数　2018年 23週（発生レベル設定疾患）　（ 2018/06/04～2018/06/10 ）　2018年6月14日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
咽頭結膜熱	32	0.59	11	0.79	11	1.00	3	0.30	3	0.43	1	0.25	2	1.00	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	112	2.07	42	3.00	29	2.64	16	1.60	5	0.71	1	0.25	4	2.00	15	2.50
感染性胃腸炎	459	8.50	143	10.21	99	9.00	83	8.30	29	4.14	43	10.75	14	7.00	48	8.00
水痘	20	0.37	6	0.43	10	0.91	2	0.20	1	0.14	1	0.25	－	－	－	－
手足口病	17	0.31	7	0.50	5	0.45	－	－	3	0.43	1	0.25	－	－	1	0.17
伝染性紅斑	12	0.22	8	0.57	－	－	4	0.40	－	－	－	－	－	－	－	－
ヘルパンギーナ	24	0.44	11	0.79	4	0.36	－	－	3	0.43	－	－	1	0.50	5	0.83
流行性耳下腺炎	7	0.13	4	0.29	1	0.09	1	0.10	1	0.14	－	－	－	－	－	－
急性出血性結膜炎	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－					－	－
流行性角結膜炎	12	1.00	10	2.00	2	0.50	－	－	－	－					－	－

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものはありませんでした。

（－： 0 or 0.00 ）　（ 空白 ： 定点なし ）

感染症発生動向調査　週情報　　報告患者数　年齢別　　（ 2018年　第23週　　2018/06/04～2018/06/10 ）

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	4	2	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
咽頭結膜熱	32	–	4	10	7	5	3	1	–	1	–	1	–	–	–
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	112	–	–	3	10	9	13	22	14	12	7	7	10	1	4
感染性胃腸炎	459	6	39	73	42	34	35	32	23	21	19	16	48	10	61
水痘	20	1	1	2	1	1	3	–	–	4	2	1	3	1	–
手足口病	17	–	3	5	5	3	–	–	1	–	–	–	–	–	–
伝染性紅斑	12	–	–	1	1	1	5	–	1	–	1	1	1	–	–
突発性発疹	26	–	5	20	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	24	–	1	9	3	7	1	2	1	–	–	–	–	–	–
流行性耳下腺炎	7	–	–	–	–	2	1	1	1	–	–	–	2	–	–

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
流行性角結膜炎	12	–	–	2	1	1	1	–	–	–	–	–	2	–	–	1	3	1	–	–

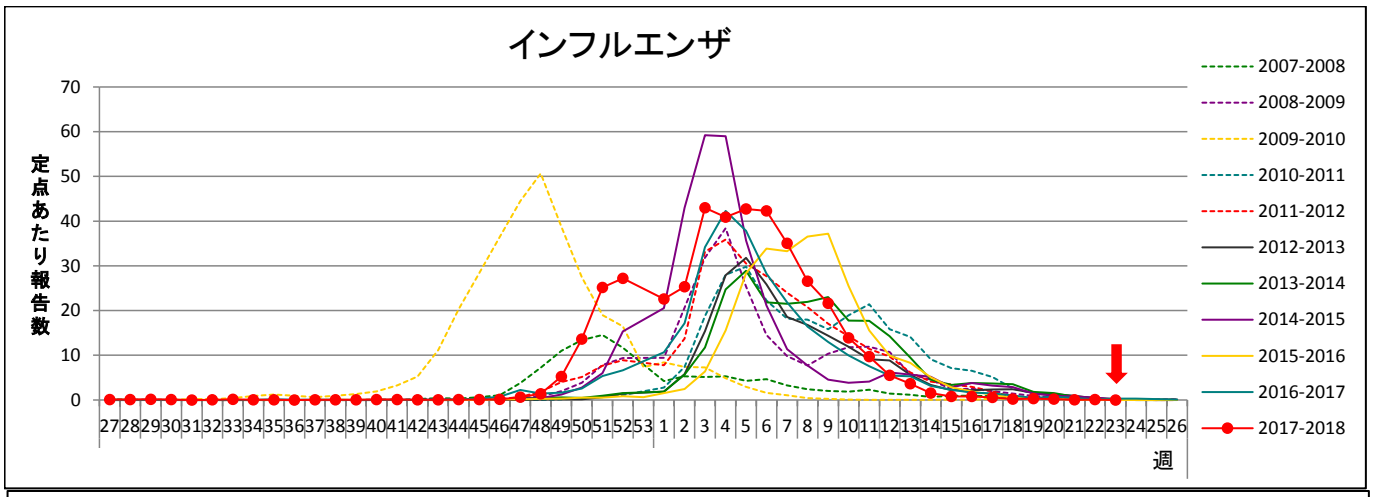
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–

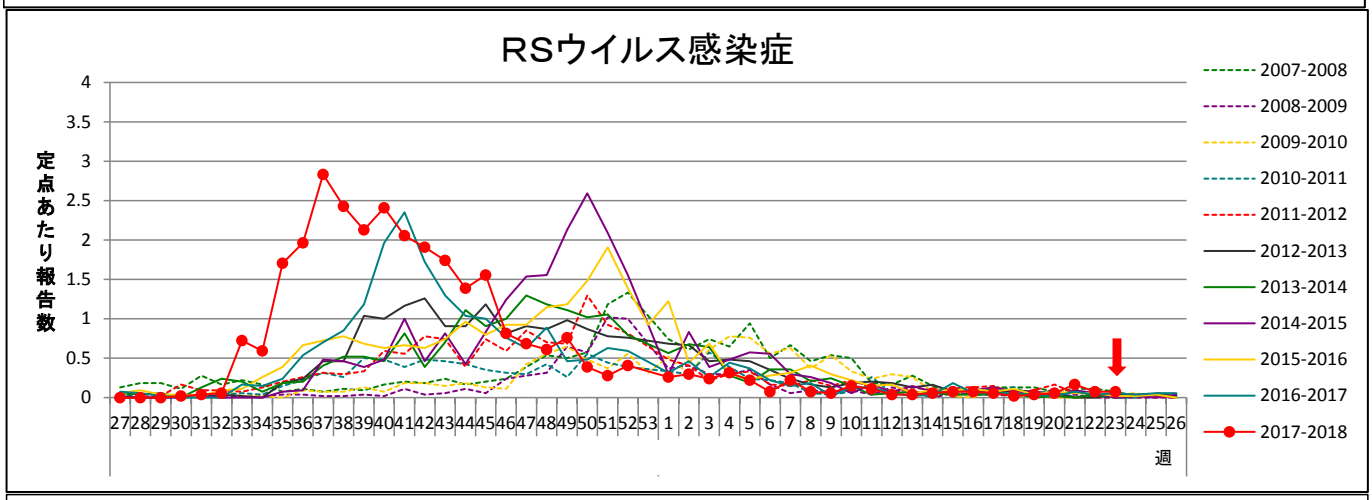
（ – ： 0 ）

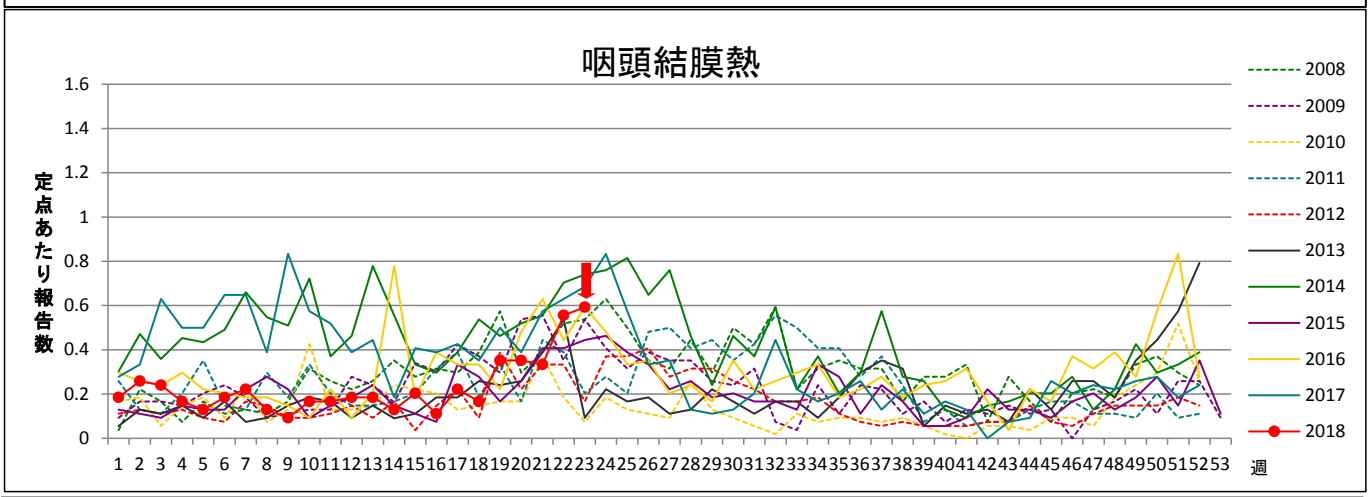
全数把握 感染症患者発生状況

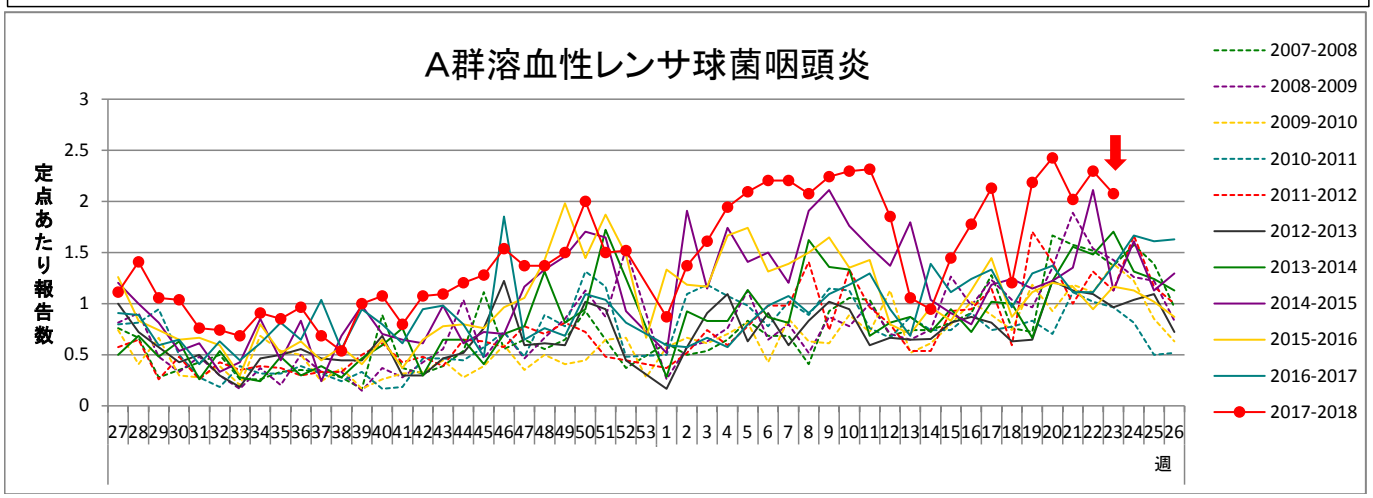
2018 年 23 週

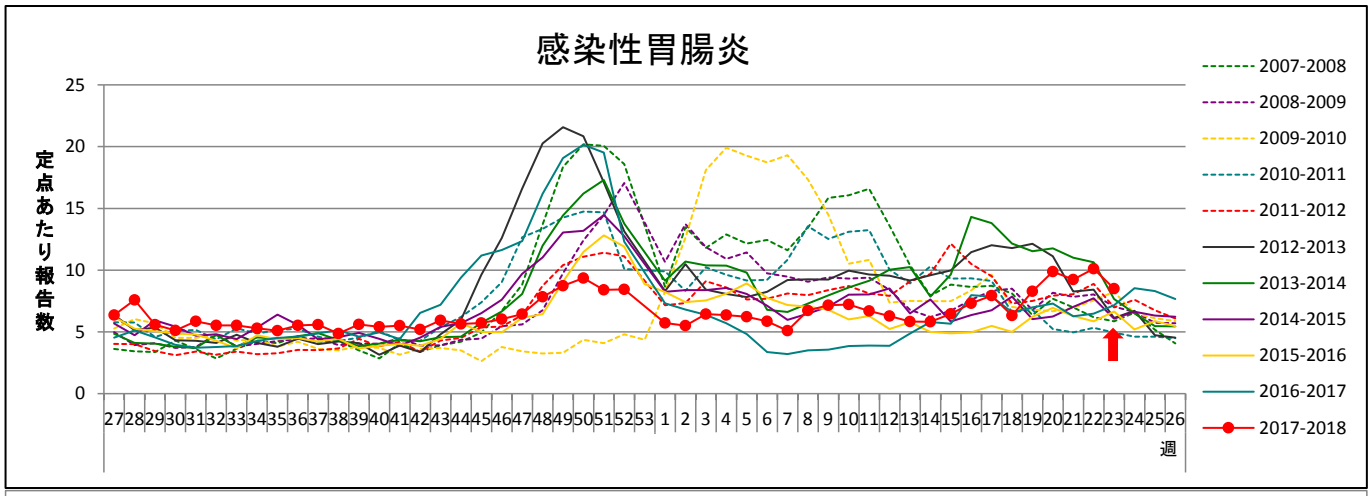
分類	疾病名	2018 今週	2018 累計	2017 昨年	疾病名	2018 今週	2018 累計	2017 昨年	疾病名	2018 今週	2018 累計	2017 昨年
一類	エボラ出血熱	–	–	–	クリミア・コンゴ出血熱	–	–	–	痘そう	–	–	–
	南米出血熱	–	–	–	ペスト	–	–	–	マールブルグ病	–	–	–
	ラッサ熱	–	–	–		–	–	–		–	–	–
二類	急性灰白髄炎	–	–	–	結核	7	134	370	ジフテリア	–	–	–
	重症急性呼吸器症候群	–	–	–	中東呼吸器症候群	–	–	–	鳥インフルエンザ（H5N1）	–	–	–
	鳥インフルエンザ（H7N9）	–	–	–		–	–	–		–	–	–
三類	コレラ	–	–	2	細菌性赤痢	–	–	3	腸管出血性大腸菌感染症	2	7	70
	腸チフス	–	1	1	パラチフス	–	–	–		–	–	–
四類	E型肝炎	–	1	1	ウエストナイル熱	–	–	–	A型肝炎	–	–	5
	エキノコックス症	–	–	–	黄熱	–	–	–	オウム病	–	–	–
	オムスク出血熱	–	–	–	回帰熱	–	–	–	キャサヌル森林病	–	–	–
	Q熱	–	–	–	狂犬病	–	–	–	コクシジオイデス症	–	–	–
	サル痘	–	–	–	ジカウイルス感染症	–	–	–	重症熱性血小板減少症候群	–	–	–
	腎症候性出血熱	–	–	–	西部ウマ脳炎	–	–	–	ダニ媒介脳炎	–	–	–
	炭疽	–	–	–	チクングニア熱	–	–	–	つつが虫病	–	2	1
	デング熱	–	–	2	東部ウマ脳炎	–	–	–	鳥インフルエンザ	–	–	–
	ニパウイルス感染症	–	–	–	日本脳炎	–	–	–	日本紅斑熱	–	2	7
	ハンタウイルス肺症候群	–	–	–	Bウイルス病	–	–	–	鼻疽	–	–	–
	ブルセラ症	–	–	–	ベネズエラウマ脳炎	–	–	–	ヘンドラウイルス感染症	–	–	–
	発しんチフス	–	–	–	ボツリヌス症	–	–	–	マラリア	–	–	–
	野兎病	–	–	–	ライム病	–	–	–	リッサウイルス感染症	–	–	–
	リフトバレー熱	–	–	–	類鼻疽	–	–	–	レジオネラ症	1	23	30
	レプトスピラ症	–	–	–	ロッキー山紅斑熱	–	–	–		–	–	–
五類	アメーバ赤痢	–	8	22	ウイルス性肝炎	1	3	12	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	8	17
	急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	–	–	–	急性脳炎	–	2	8	クリプトスポリジウム症	–	–	–
	クロイツフェルト・ヤコブ病	–	1	3	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	10	9	後天性免疫不全症候群	1	7	22
	ジアルジア症	–	–	–	侵襲性インフルエンザ菌感染症	–	–	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	–	1	–
	侵襲性肺炎球菌感染症	–	25	36	水痘（入院例に限る。）	–	2	6	先天性風しん症候群	–	–	–
	梅毒	1	66	172	播種性クリプトコックス症	–	2	1	破傷風	–	–	–
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	–	–	–	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	–	–	7	百日咳	4	81	–
	風しん	–	–	–	麻しん	–	–	–	薬剤耐性アシネトバクター感染症	–	–	–

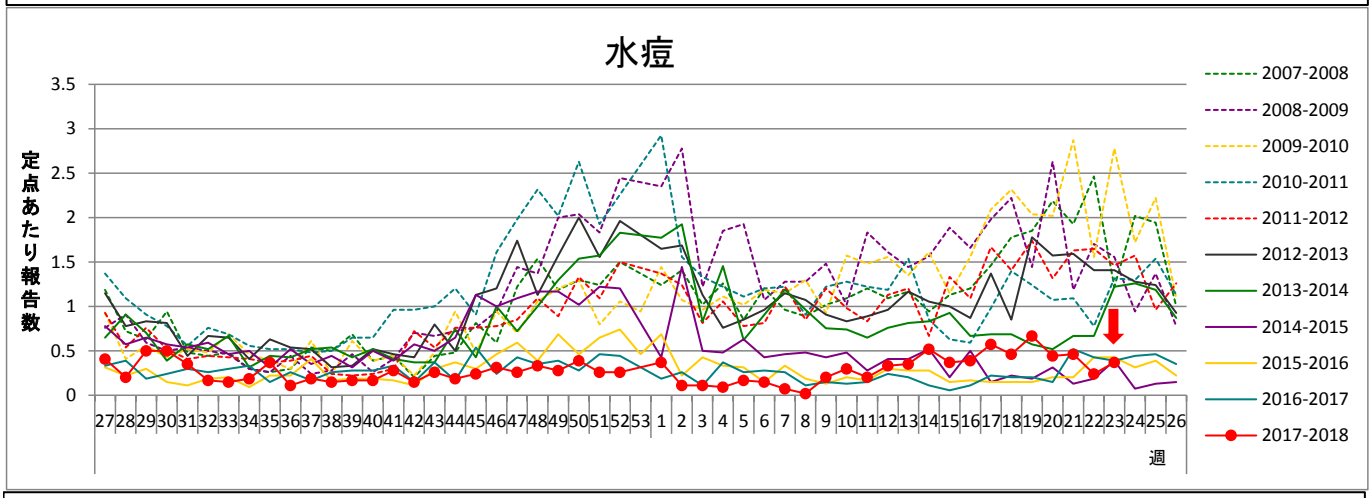

インフルエンザ
定点あたり報告数
週
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018

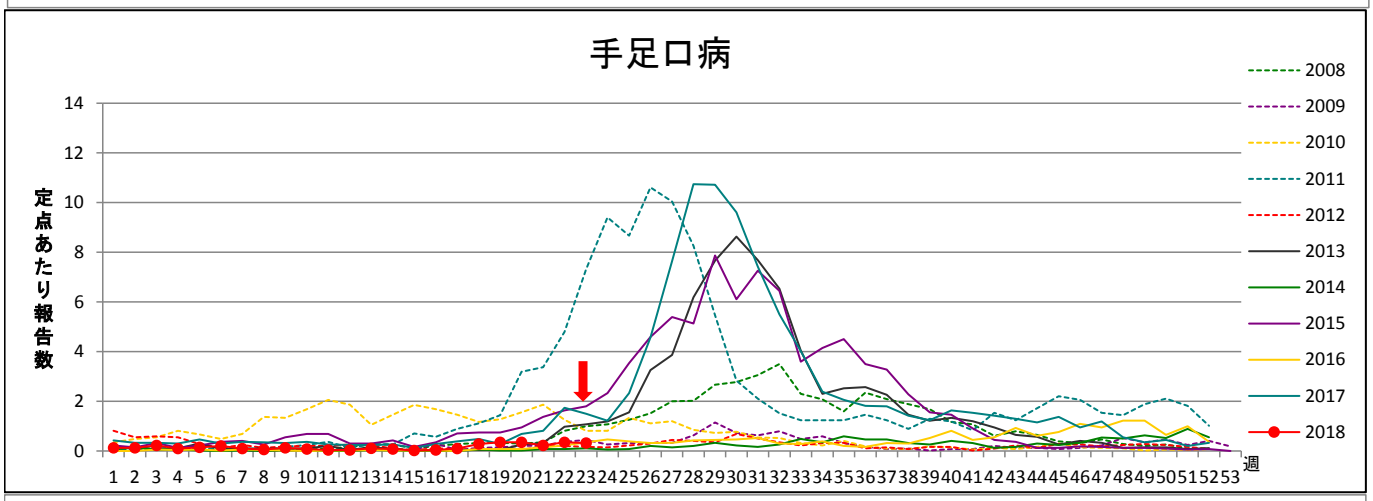

RSウイルス感染症
定点あたり報告数
週
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018

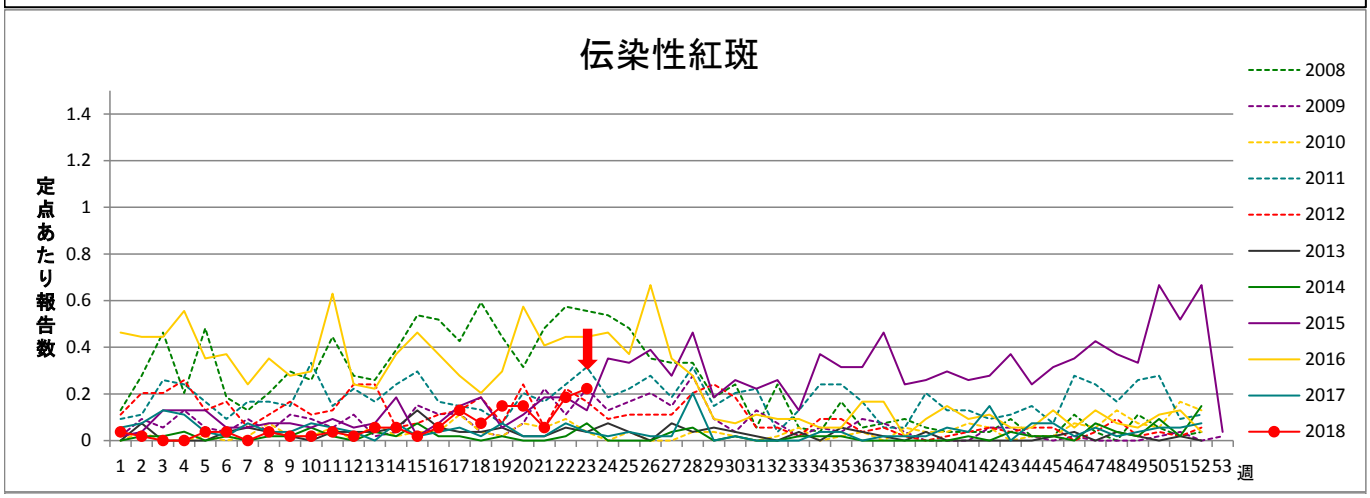

咽頭結膜熱
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018

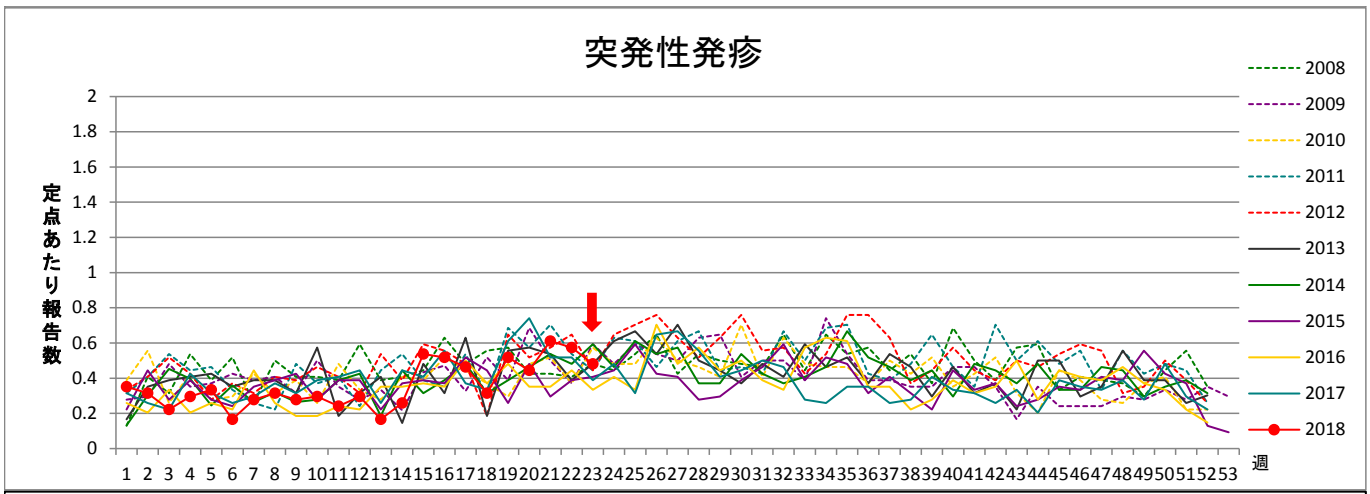

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
定点あたり報告数
週
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018

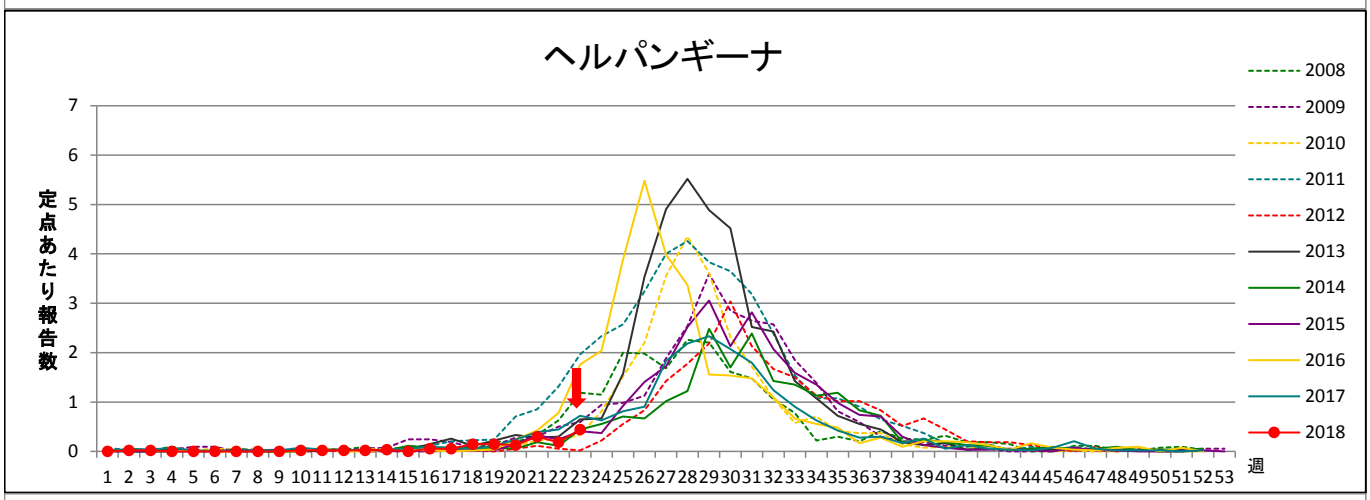

感染性胃腸炎
定点あたり報告数
週
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018

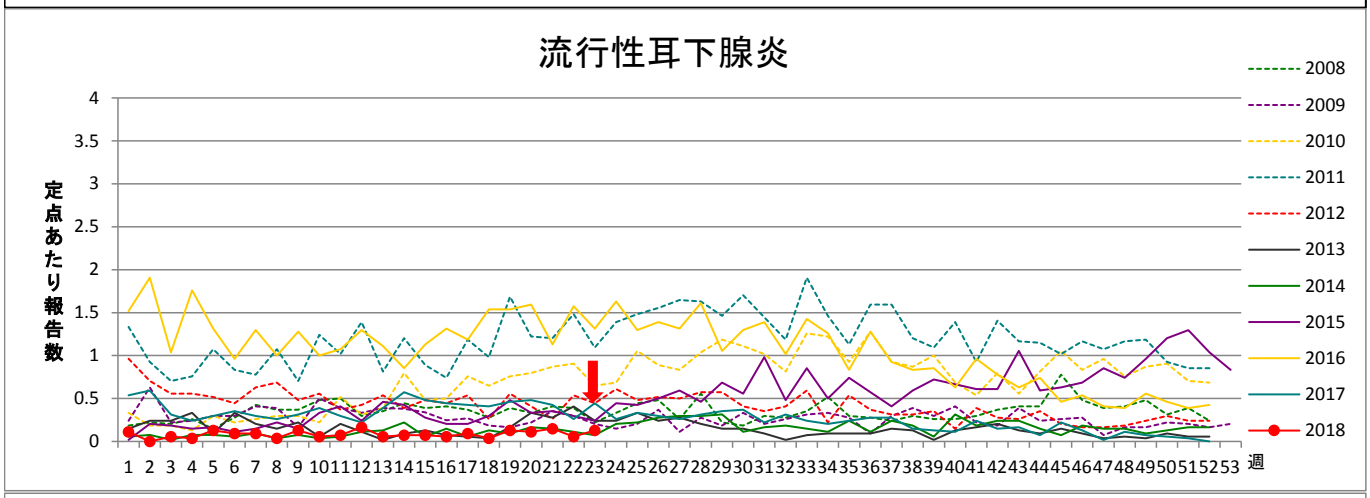

水痘
定点あたり報告数
週
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018

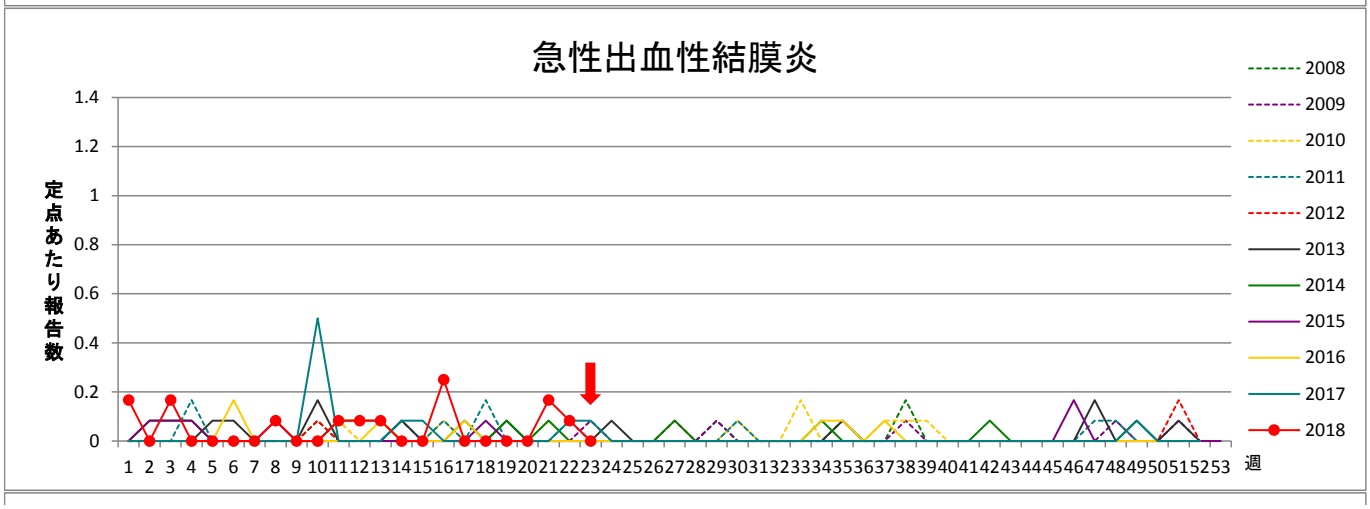

手足口病
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018

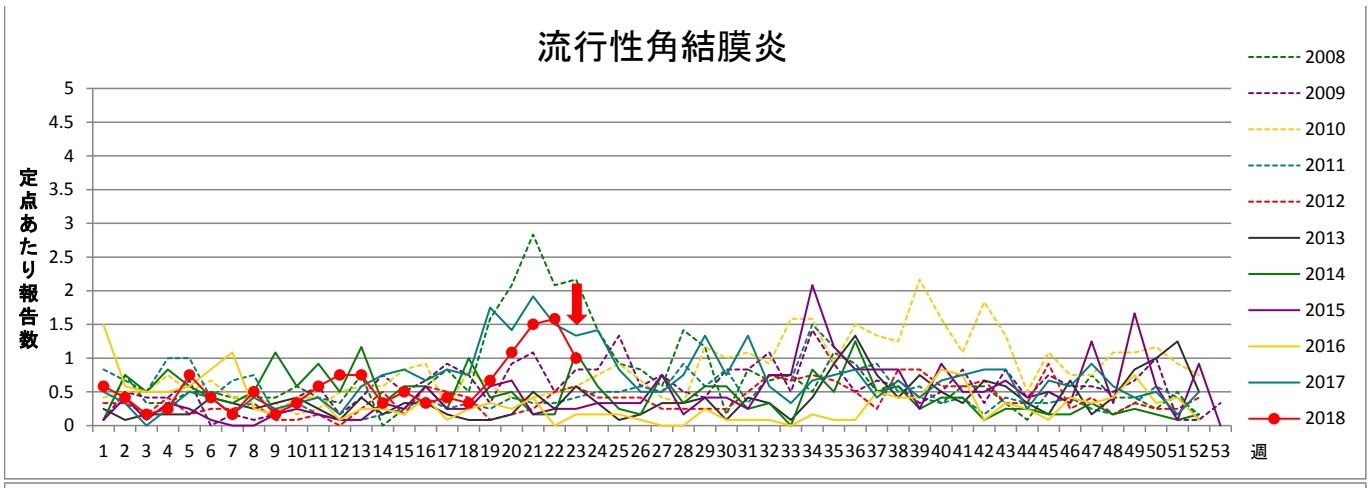

伝染性紅斑
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018

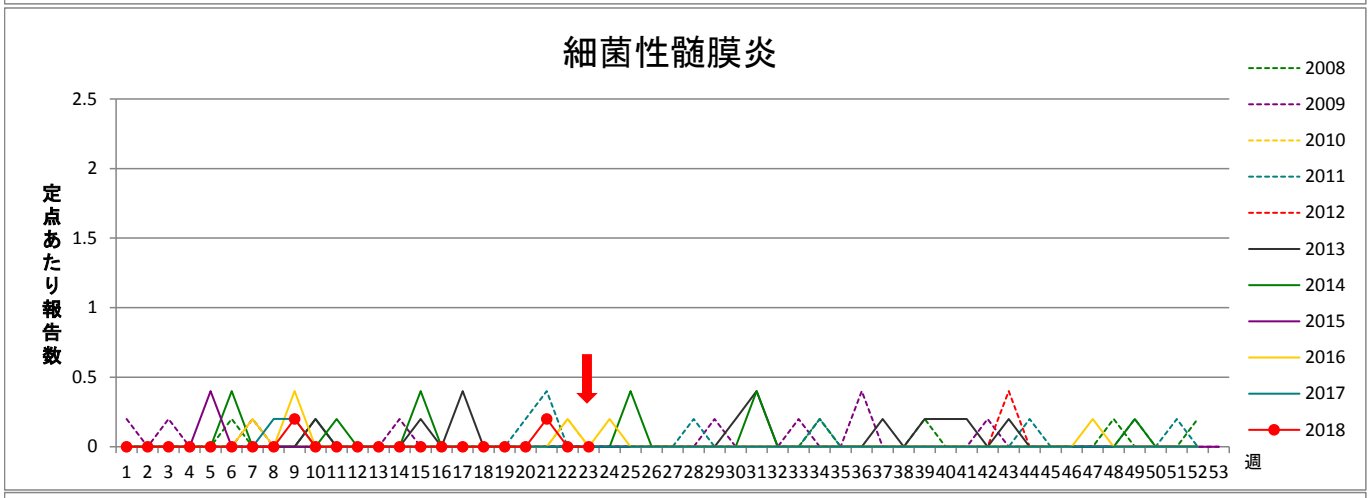

突発性発疹
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018

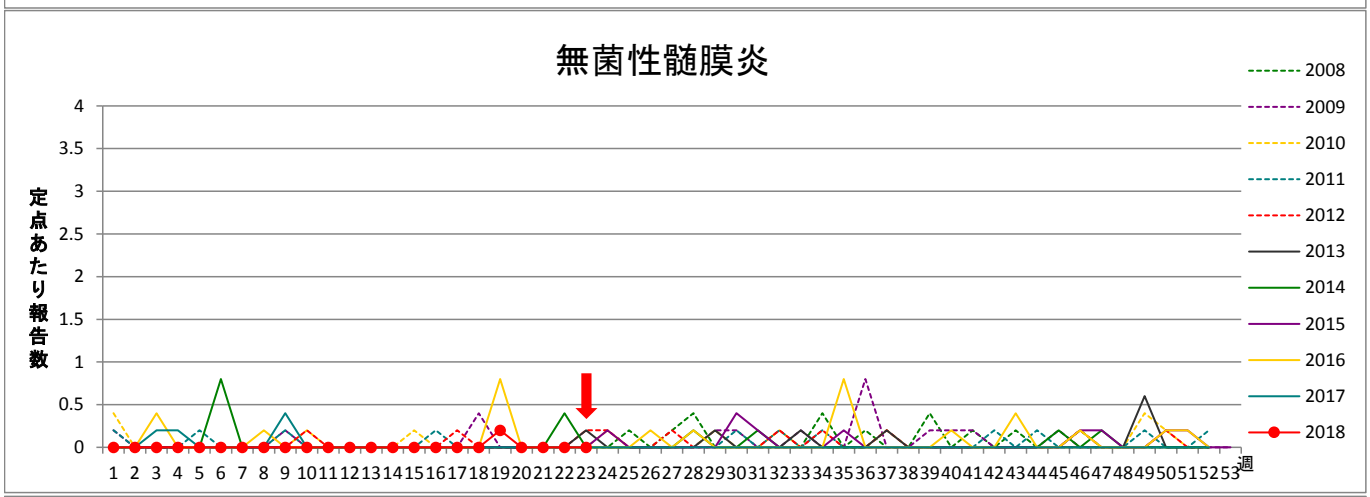

ヘルパンギーナ
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018

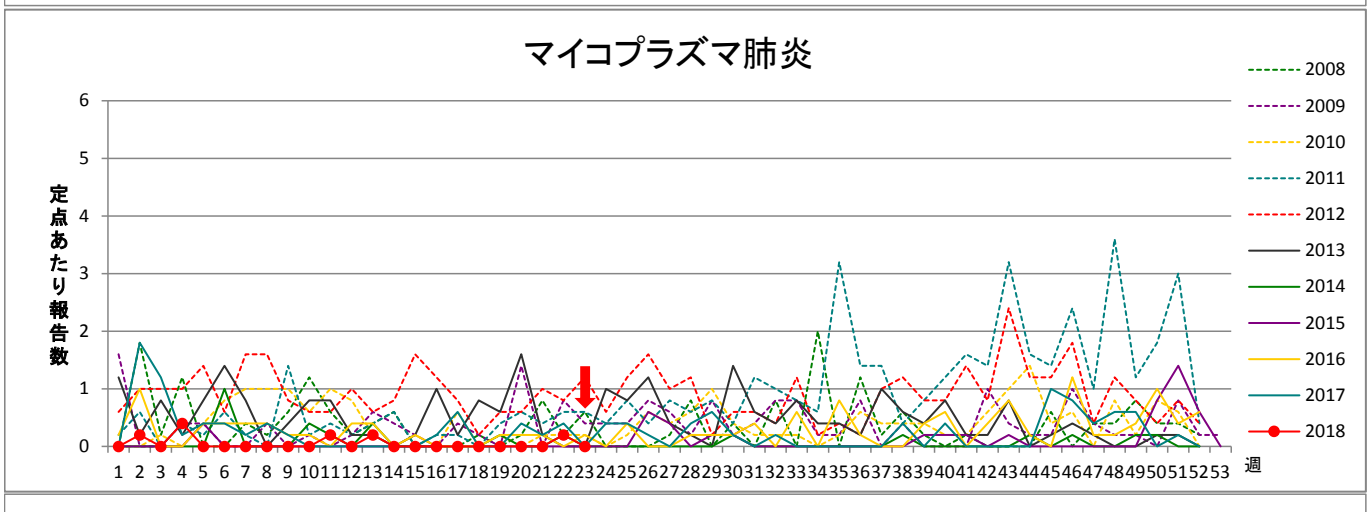

流行性耳下腺炎
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018

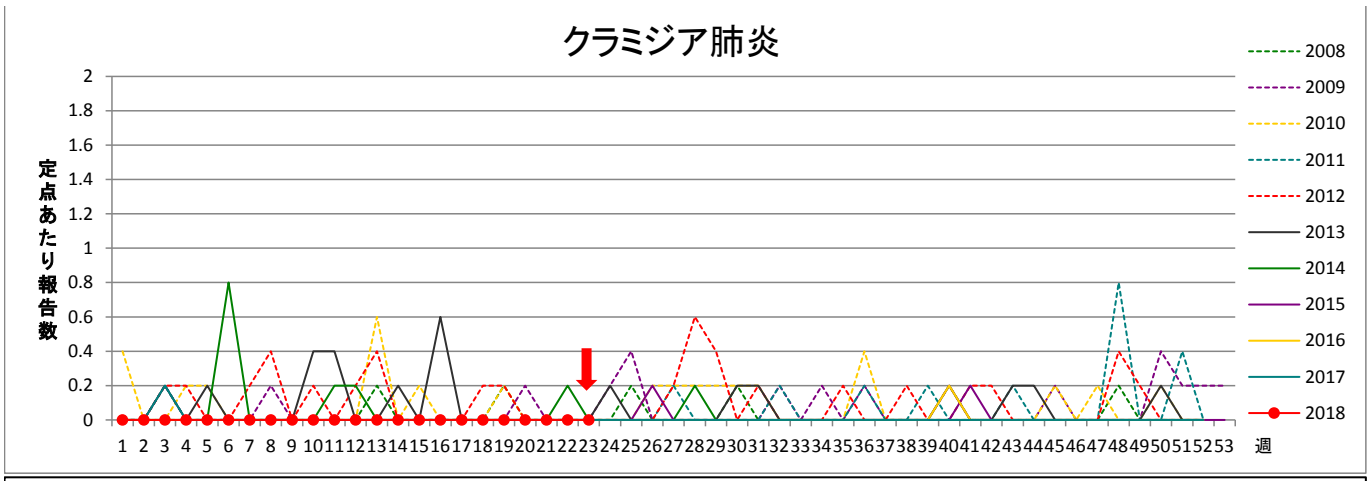

急性出血性結膜炎
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018

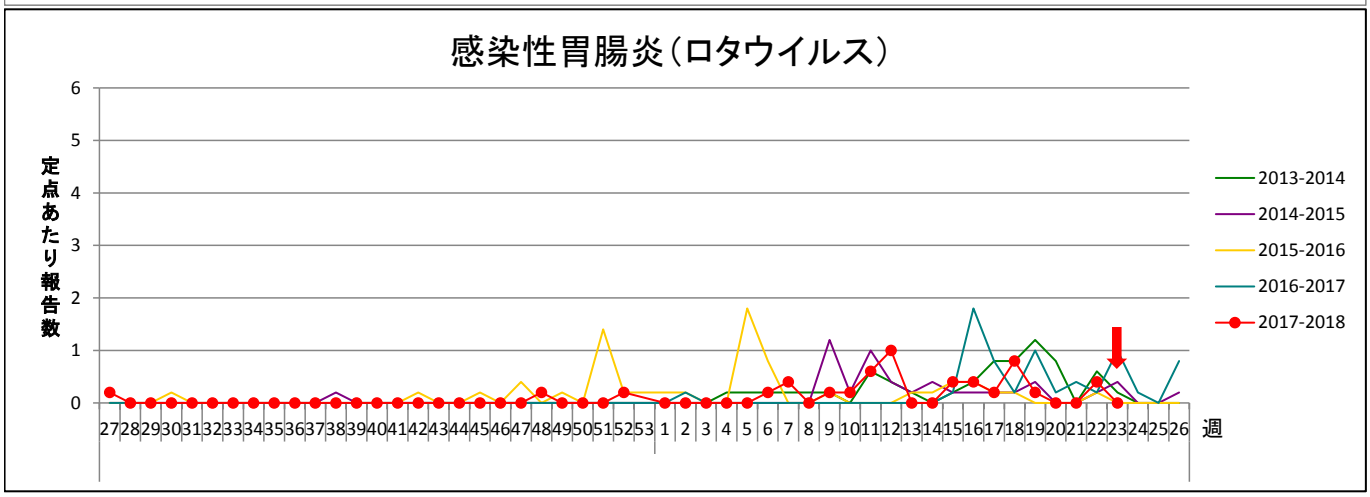

流行性角結膜炎
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018


細菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018


無菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018


マイコプラズマ肺炎
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018


クラミジア肺炎
定点あたり報告数
週
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018


感染性胃腸炎（ロタウイルス）
定点あたり報告数
週
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018